

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
相談援助演習Ⅳ Seminar of Social Work Ⅳ		2年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	選択	(社会福祉士国家資格取得のための必修科目)	社会福祉フィールド以外、履修不可
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
社会福祉士国家資格取得に必要な科目や社会福祉学に関連する科目				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
社会福祉士国家資格取得に必要な科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
幡山久美子	本館1階 非常勤講師室	木曜日 8:50~16:00		授業中に指示します
授業の概要 相談援助演習Ⅲに引き続き、個人や集団を対象とした基本的面接技術を高める。また地域福祉を展開するために必要な基盤整備と開発についても検討していく。				
授業の目標 ①利用者主体の援助および利用者理解について事例研究を通して検討・考察することができるようになる。 ②地域住民および当事者の生活を支援するための地域福祉に関する技術を習得し、相談援助専門職としてのかかわり方が自覚できるようになる。 ③プレゼンテーションに際し、創意・工夫ができるようになる。				
授業の方法 演習。 社会的排除、虐待、家庭内暴力等に関する事例研究とグループディスカッション。 基本的な面接技術習得およびコミュニティワークのためのロールプレイング。				
学習の成果(学習成果) この授業を履修すると、 ①生活場面で利用者のエンパワメントを高める技法を身につけることができる。 ②利用者主体の援助のために相談援助の専門職としての課題を検討することができる。 ③地域で生活する利用者と住民とをつなぐ方法を検討することができる。 ④理解したことを他者に伝える能力を養い、また相互交流によって多面的な理解も学ぶことができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス・概要説明			
第2回目	地域福祉の展開と当事者学			
第3回目	事例研究：社会的排除された人への支援（1） インテーク、アセスメント、プランニング、介入			
第4回目	事例研究：社会的排除された人への支援（2） ネットワーキング構築に向けての支援			
第5回目	事例研究：ドメスティックバイオレンスへの支援（1） インテーク、アセスメント、プランニング			
第6回目	事例研究：ドメスティックバイオレンスへの支援（2） 介入、モニタリング、効果測定、終結			

第7回目	事例研究：家族への支援	
第8回目	事例研究：障害のある人と地域住民とのつながり	
第9回目	事例研究：障害のある人とささえる人とのネットワーキング	
第10回目	事例研究：社会資源の活用・調整・開発と地域福祉サービスの評価	
第11回目	対人援助者としての姿勢・態度について（1）	
第12回目	対人援助者としての姿勢・態度について（2）	
第13回目	ケースワーク演習	
第14回目	グループワーク演習	
第15回目	まとめ 面接を通しての利用者理解と利用者から学ぶこと	
成績評価の方法と基準		
	評価の領域	割合
授業参加態度	30%	評価の基準 グループディスカッションへの積極的な発言。他の人のプレゼンテーションに対する聴く態度と積極的な発言。
レポート	30%	課題に即した記述であること。自分自身に対する振り返りがなされていること。
調査報告書		
小テスト		
試験		
発表内容（態度含む）	40%	担当箇所へ責任を持つこと。内容を十分に理解していること。他の人にも伝わる声の大きさ、読みやすいレジュメの作成。
その他		
教科書と参考図書		
浦河べてるの家『べてるの家の「当事者研究」』 適宜資料を配布する。		
履修上の留意点・ルール		
目的意識・課題意識を明確にして授業に臨むこと。 遅刻厳禁。居眠り・私語・携帯端末の不適切な使用について厳重に注意する。飲食禁止。		